

# 九州電力の最大電力需要時の供給力

2011.7.12

## 1 2011年夏:九州電力による最大電力需給見込み

九州電力が2011年3月に明らかにした「平成23年度供給計画の概要」によれば、下表のとおり、2011年度の最大電力需要時(1年間で最も電力を使用した時の3日間の電力の大きさの平均値、例年7月か8月)に十分な供給余力があることを示している。

この間、供給力の内訳を開示するよう求めてきたが、九州電力は「経営情報」を理由に拒否し続けている。

	発電所名など	最大電力	出典	備考
需要		1,669万KW	A	2011年度推計値。10年度実績1,676万kW
供給力		1978万KW	A	
供給予備力		309万KW	A	
供給予備率		18.51%	A	

## 2 2011年夏:定期検査中の原発などを再開させない場合の最大電力需給見込み

定期点検にはいつている玄海2・3号機と川内1号機、及び老朽化により劣化が進んでいる玄海1号機を停止させた場合の2011年度の最大電力需要時の供給力を予測したものの。

九州電力が最大電力需要時の供給力について、発電所ごとの内訳を明かさなため、九州電力が所有している電力設備及びJパワー・電源開発(注1)などの他社からの購入電力を推計して供給力を計上した結果、供給余力が大きいことは明らかである。

	発電所名など	最大出力	出典	備考
需要		1,669万KW	A	2011年度推計値
供給力	原子力発電の最大出力(注2)	207万KW	B	玄海4(2011.12点検入り、118万kW) 川内2(2011.9点検入り、89万kW)
	水力発電の最大出力	298万KW	B	2010.3末
	石油火力発電の最大出力	462万kW	B	2010.3末
	石炭火力発電の最大出力	246万kW	B	2010.3末
	LNG火力発電の最大出力	410万kW	B	2010.3末
	地熱、内燃力発電など	61万kW	B	2010.3末
	新設発電所の最大出力	60万kW	C A	小丸川1(2010.7運用開始、30万kW) 小丸川2(2011.7運用開始、30万kW)
	九州電力所有の最大出力	1,744万kW	小計	
	太陽光等買い取り電力	非公開		
	他社からの購入電力(注3)	非公開だが概ね250万kW		
	現有供給力	1,994万kW+非公開		
供給予備力		325万KW以上		
供給予備率		19.47%以上		

## 3 2012年夏:原発を全て停止し、九電設備をフル活用した場合の最大電力需給見込み

2011年12月に玄海4号が定期点検にはいれば、九州の原子力発電所は全て停止される。原子力発電所が1基も稼働しなくても、2012年度の最大電力需要時でも供給力が十分にあることは明らかである。

九州電力が計画停止をしている発電所を稼働させ、廃止予定の発電所の廃止時期を延期させ、工事を休止している発電所の工事を再開すれば供給余力が十分にあることを示している。

	発電所名など	最大出力	出典	備考
需要		1,684万KW	A	2012年度推計値。省エネで減少可能
供給力	原発を除いた現有供給力	1,787万kW+非公開		上表現有供給力から玄海4と川内2を減
	計画停止発電所	87.5万kW	A	唐津2・3
	廃止予定発電所	87.5万kW	A	荇田新2(2011年度廃止、37.5万kW) 大分1・2(2012年度廃止、50万kW)
	停止・廃止供給力	175万kW	小計	
	工事休止	100万kW	A	松浦2(2001.4.20着工後休止)
	最大可能供給力	1974.5万kW+非公開	総計	(注4)
供給予備力		187.5万KW以上		新規電源開発で上積み可能
供給予備率		11.13%以上		

注1)Jパワー(電源開発株式会社)は、九州内に川内川第一(水力・12万kW)、松島(火力・2基で100万kW)、松浦(火力・2基で200万kW)などの発電所を有し、九州電力などに売電している。

注2)定期点検中の原発は玄海2(2011.1～、55.9万kW)、玄海3(2010.12～、118万kW)、川内1(2011.5～、89万kW)の計262.9万kW。申入れでは、老朽化した玄海1号(2011.12定期点検入り、55.9万kW)の即時停止を求めているので、318.8万kWの原発が停止。

注3)資源エネルギー庁の「電力調査統計」によれば、九州電力の最大3日平均電力の他社受電は、2010年7月が255.6万kW、2010年8月が254.6万kW、2011年3月が247.7万kW。

注4)廃止予定発電所87.5万kWは、2010年3月末の「現有供給力」に計上されているので合計から削除した。工事休止の松浦2が運用開始に至らなくとも、省エネ及びガスタービンなどの電源開発、風力発電の連携可能容量100万kW(2010.3現在の導入量36万kW)到達など再生可能エネルギー導入の加速化により供給力は確保できる。

\*A:九州電力「平成23年度供給計画の概要」(2011年3月発行)

\*B:電気事業連合会「エネルギーの基礎2010-2011」(2010年12月) 2010年3月末の設備量。

\*C:九州電力「平成22年度経営計画の概要」(2010年3月発行)